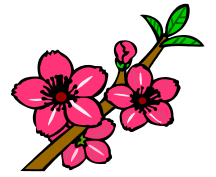


三小だより 3月号



教育目標 「力たくましく 確かな学力を身につけた 心豊かな子どもの育成」

学校・家庭アンケートより

校長 岡村崇弘

日ごとに暖かくなり、子どもたちが元気に運動場を駆け回る姿も増えてきました。春は、もうそこまでやってきているようです。それでも三寒四温と言われるように、一足飛びに春が訪れるわけではありません。季節の変わり目、ご自愛され、体調管理には十分にお気をつけください。

さて、過日実施いたしました学校・家庭アンケートへのご協力ありがとうございました。その結果について、特徴的なことをお伝えいたします(裏面に全結果を掲載しています)。

保護者分では、「読書時間や読書量」以外の項目で、「よくあてはまる・ややあてはまる」という肯定的回答がほぼ9割を超え、昨年やや低調だった「教員の、児童の状況把握」に対する評価も改善するなど、本校の方針等を概ねご理解いただいている模様です。児童分においても、多くの項目で肯定的回答が9割を超えるなど概ね良好な結果でしたが、1.2年生で多くの項目で前年を下回った点、3~6年生で肯定的回答が約8割に止まっている項目がある点など、まだまだ改善していかなければならないことも多くありました。以下、もう少し現時点での成果や課題を考えたいと思います。

児童の99%が、「先生は分かりやすく教えてくれる」と回答していることから、授業改善の成果は表れてきたように思います。ただ、3~6年生では「学校の勉強が楽しい」「先生に質問しやすい」等で肯定的回答が約8割に止まり、1.2年生でも前年度より肯定的評価が下がっていることから、これまで以上に、児童の学習意欲や関心が向上するような創意工夫を重ねるとともに教師と児童との人間関係、信頼関係を高め、伸び伸びと授業に参加できる環境を作っていく必要性を感じています。



「学校が楽しい」や「友達がたくさんいる」という項目でも比較的良好な結果が出ています。「先生は自分をよく見て、頑張りを認めてくれる」と感じている児童が9割を超えていることから、自己有用感を持つ児童も多く、学校が安全・安心な場所になっていると思われれます。ただ、少人数ですが、これらの項目に否定的な回答をしている児童もいます。また、「いじめ」に関する項目でも昨年より後退しています。より丁寧な観察を行い、情報共有を図り、児童の気持ちに寄り添った指導を心掛けたいと思います。

「読書時間や読書量」が前年をさらに下回る結果になっています。携帯電話、動画、ゲームなど、子どもの興味関心が多様化しているとはいえ、読書の楽しさや必要性を伝え、読書習慣をつけていくためにも、学校全体で具体的方策を議論し、共通理解の上、取り組む必要性を感じています。ご家庭でも「読書」のことを話題にし、親子で一緒に本を読む時間をとっていただけるとありがたいです。

いよいよ3月、現学年の仕上げの時期です。一人ひとりが、自分を見つめ直し、今できること、今しなければならないことをしっかりと考え、実行し、新学年につながる毎日にしてほしいと思います。